はじめに

日本のエアゾール市場は，2020年に5億534万4千缶の生産量を記録し，完成品輸入1億1,750万缶を加えた市場配荷量，つまり日本の“実力”は6億2千万缶を超えています。これにカセットこんろ用ボンベ，カークーラー用サービス缶など関連業界品を含めると，市場配荷量は7億9千万缶を超える大きなマーケットを形成し，一進一退の状況を続けています。

それにもかかわらず近年，エアゾール市場は品種や商品銘柄，また，それに関係する市場メーカーが激増し，複雑多岐，おびただしい数に上がっております。製販の両面において，時代の変化とともに新しい潮流と課題が絶えず生起しているのが現状です。この時に当り，弊社では日頃の取材資料を基礎に，編集陣の総力を挙げて，これを整理し，マーケティング・製品開発の資料として提供する意義は大きいものと確信しています。本書は去る2018年12月に刊行した「2019年版エアゾール市場要覧」の内容を更に充実，最新情報に基づく改訂を行い，構想も新たに企画制作したものです。

本書の内容は，第1部「品目別市場解説記事及び市販メーカーリスト(商品名，価格，容量を含む)篇」，第2部「関係統計資料篇」，第3部「業界主要会社案内篇」，第4部「関連会社リスト(充填・資材・団体等)篇」，第5部「業界関係団体会員名簿篇」で構成，一目で業界の現勢がわかるハンドブックになるよう鋭意努力致しました。

本書刊行準備中，業界関係者のご協力はもちろん，多くの方々から賜わった親身なご助言と温かいご支援を心から感謝申し上げます。

意に満たぬ点が多々あるまま上梓するのは誠に恐縮に存じます。各方面からご叱正，ご意見をいただき，こんご回を重ねる毎に内容をより充実，豊富なものにいたしたいと考えております。重ねて，読者皆様のご理解，ご協力をお願い申し上げる次第であります。

2021年12月

株式会社エアゾール産業新聞社

代表取締役社長　小林和歌子

目　次

はじめに……13
目　次……14
本書をみる人のために……21

第1部　品目別市場解説・市販会社リスト　23～398

エアゾール業界の概況……25
1. 家庭用品
殺　虫　剤……33
全量噴霧式くん蒸殺虫剤……42
園芸用殺虫剤……45
アリ・不快害虫用殺虫剤……48
ダニ用殺虫剤……57
塗　　料……60
ガラスクリーナー……70
オーブン換気扇クリーナー……73
室内消臭剤……75
靴用消臭剤……84
防　水　剤……89
衣類用静電防止剤……98
調理器具用除菌スプレー……101
エアコン洗浄剤……104
2. 人体用品
ヘアスプレー……109
染　毛　剤……131
ヘアケアスプレー……144
泡状ヘアケア剤……159
育毛トニック剤……177
天然水・化粧水スプレー……185
シェービングフォーム……197
泡状スキンケア剤……206
制汗消臭剤……221
足臭防止剤……228
人体用害虫忌避剤……231
ＵＶカットスプレー……237
花粉付着防止剤……249

3. 医　薬　品
喘　息　薬……255
外用消炎鎮痛剤……259
水　虫　薬……263
皮膚疾患剤……267
4. 工業用品
防錆潤滑剤……273
金属探傷剤……296
離　型　剤……300
接　着　剤……308
5. 自動車用品
くもり止め・撥水剤……323
タイヤ・レザー保護剤……327
シャーシー塗装剤……333
自動車用補修塗料……341
キャブ＆エンジンコンディショナー……344
ブレーキクリーナー……349
自動車用解氷剤……361
自動車用ボディコート剤……364
6. そ　の　他
調理油スプレー……371
ホイップクリーム……375
ペット用品……377
ガスライター用ボンベ……381
カセットこんろ用ボンベ……385
ブ ロ ワ ー……390

第２部　関係統計資料　399 ～ 438

2020 年エアゾール製品生産数量調査表……401
2020 年のエアゾール製品の生産状況……402
2011 年～ 2020 年の品目別生産統計……404
日本のエアゾール生産量と国民１人当り生産量の推移……405
過去 10 年間及び 2020 年月別のヘアスプレー出荷金額……406
検査からみた輸入品の状況……406
世界のエアゾール生産量……407
米欧主要各国の生産状況……408
2016 ～ 2020 年米国生産量……409
2017 ～ 2020 年欧州主要国生産量……410
エアゾール製品の使用状況……411

都道府県別充填工場数……418
エアゾール充填業者の記号……419
2011年～2020年の製缶・バルブ実績（国産）……420
2011年～2020年の容器別生産量と使用比率……420
エアゾール簡易消火具の評価実績……421
カセットこんろ用ボンベ検査実績……421
エアゾール噴射剤へのHFC使用量……422
エアゾール用語（案）……423

第3部　業界主要会社案内　439～482

受託充填……441
製品販売……457
原資材……465

第4部　関連会社リスト　483～528

充填……485
容器……491
バルブ……494
ポンプ……496
キャップ……499
噴射剤……500
機械器具……505
溶剤……508
化粧用樹脂（レジン）……510
殺虫原体・同増強剤……513
化粧品原料その他……516
関係団体……518
関係官庁……523

第5部　業界関係諸団体会員名簿篇　529～639

日本エアゾール協会……531
日本エアゾル・ヘアーラッカー工業組合……533
日本エアゾール容器協議会……534
日本フルオロカーボン協会……534
日本化粧品工業連合会……535
日本ヘアカラー工業会……590
日本家庭用殺虫剤工業会……592
生活害虫防除剤協議会……594
東京医薬品工業協会……596

関西医薬品協会…… 604
日本塗料工業会…… 616
日本石鹸洗剤工業会…… 627
芳香消臭脱臭剤協議会…… 630
日本オートケミカル工業会…… 634
日本ガス石油機器工業会…… 637
日本喫煙具協会…… 638

《業界主要会社案内》掲載各社一覧

(50音順)

受　託　充　填

ウナテック株式会社…… 453
エア・ウォーター・ゾル株式会社…… 441
英昌化学工業株式会社…… 442
エヌ・ケイ・ケイ株式会社…… 453
花精化学工業株式会社…… 443
小池化学株式会社…… 444
株式会社サンユー…… 454
新日本エアゾル工業株式会社…… 454
スズカファイン株式会社…… 445
株式会社ダイゾー…… 446
大日本エアゾール工業株式会社…… 455
中央エアゾール化学株式会社…… 447
槌屋ケミカル株式会社…… 448
東邦金属工業株式会社…… 449
東洋エアゾール工業株式会社…… 450
名古屋エアゾール株式会社…… 455
日進化学株式会社…… 451
株式会社日本コムテック…… 456
日本美容化学株式会社…… 456
韓国 SUN GROUP（株式会社 勝一 / 株式会社 太陽）…… 452

製　品　販　売

アース製薬株式会社……462
イリヤ化学株式会社……462
呉工業株式会社……463
神戸合成株式会社……457
大日本除虫菊株式会社……458
株式会社東洋化学商会……459
株式会社ニチネン……463
株式会社ニューヘヤー化粧料本舗……460
株式会社マンダム……464
三口産業株式会社……461
韓国 OJC CO., LTD.（日本法人：株式会社 TTS）……464

原料・資材・機械

岩瀬コスファ株式会社……477
大阪有機化学工業株式会社……477
株式会社大淀高圧……478
カネダ株式会社……478
株式会社コーレンス……479
三愛石油株式会社……465
住友化学株式会社……466
大洋液化ガス株式会社……479
大陽日酸株式会社……480
大和製罐株式会社……467
株式会社タカハシプラスチック工業……468
武内プレス工業株式会社……469
タスマン株式会社……480
タナカケミカル株式会社……481
東京コヤマプラスチック株式会社……481
東洋製罐株式会社……470
日光ケミカルズ株式会社……471
日本プリシジョンバルブ株式会社……482
プライミクス株式会社……472
北海製罐株式会社……473
株式会社町山製作所……482

株式会社丸一……474
株式会社三谷バルブ……475
株式会社吉野工業所……476

普通広告掲載会社

Aptar Japan 株式会社……10
エア・ウォーター・ゾル株式会社……314～315
小池化学株式会社……9
株式会社ダイゾー……644～645
武内プレス工業株式会社……5
東洋エアゾール工業株式会社……2～3
東洋製罐株式会社……312～313
日進化学株式会社……311
北海製罐株式会社……316
株式会社丸一……8
株式会社三谷バルブ……6～7
株式会社吉野工業所……317

本書をみる人のために

■本書の内容

第１部・主要エアゾール製品別市場解説およびエアゾール製品市販会社（商品名を含む）リスト，第２部・関係統計資料，第３部・主要会社案内（受託充填・製品販売・原資材），第4部・関連会社（充填・資材・官庁団体)リスト，第５部・関係諸団体会員名簿に大別してあります。

■調 査 時 期

2021年９月現在を原則とする調査です。

■各項目の説明

□会社名の配列は50音順です。

□第１部について

●製品の分類法，配列順は，原則として米国HCPA，日本エアゾール協会の生産数量調査表を参考に若干修正しました。

●家庭用品，人体用品，医薬品，工業用品，自動車用品，その他に6分類し，それぞれ各品目ごとに調査しました（全49品目）。

●会社名，本社所在地，市販製品名（容量・価格）を掲載しましたが，東京以外に本社がある場合は東京の支店・営業所等を記載しました。

●ヘアスプレー，泡状ヘアケア剤，防錆潤滑剤は，メーカーによって多銘柄の販売があり，全部収録することは非常に煩瑣を来すため，主力銘柄品に限りました。

□第４部について

●所在地および電話番号は本社のもの。ただし，本社が実際に営業活動をしていないか，支店営業所の方が主体に営業活動を行っている場合は，支店・営業所のもの。

●代表者名は，担当部課名が記してある場合，その責任者名。

●充填業者の項は，工場所在地および同電話番号を併記。

●部門によっては，メーカー名，ディーラー名を一括して掲載しております。

□第５部について

●関係諸団体からいただいた最新の名簿を収録しました。

最新展望 主要製品

□エアゾール業界の概況

市況回復の歩調強める

― コロナ禍から脱却へ

《歴史的な歩みと背景》 日本のエアゾール産業の歴史的な流れを振り返ってみると，第二次世界大戦の戦後経済の復興過程から生まれた新しい化学的包装産業といえる。我が国にエアゾール技術が紹介されたのは，昭和7年にノルウェーのエリック・ロータイムが特許「噴射セントスル物質内ニ溶解サレタル圧縮ガスヲ以テ該物質ヲ噴射セシムル装置」（日特97521）を出願したのが初見だが，一般の目にふれだしたのは，終戦後，米占領軍の将兵が持ち込んでからである。これらの製品の模造品の研究が進み，1948年から50年にかけて失敗と試行錯誤を繰り返しながら，2～3名の先駆者がヘアスプレーと殺虫剤を世に出した。51年には噴射剤に塩化メチルを使用した製品を企業ベースで生産する日本で最初のエアゾール専門会社，日本低圧工業やチヌ低圧が誕生したが，翌52年にフロンガスを使い始めた日本エアゾル工業，53年にLPGを開発し業界発展の推進力としてなおリーダー的活躍を続けている東洋エアゾール工業，54年に受託充填の有力会社であるエアゾール工業（現・ダイゾーの前身）が相次いで設立された。この間，51年頃からヘアスプレーの販売を手がけ，極く短日時のうちに生産も始めた東京スプレー研究所（東京エアゾル化学の前身），花精化学工業なども市場の拡大に努めた。池谷大正氏（東洋エアゾール工業創業者），須崎国衛氏（東京エアゾル化学創業者），高杉正氏（日本低圧工業設立者），井上市造氏，雑賀善吉氏，五百崎信雄氏，松本幸市氏（花精化学工業創業者）らは日本におけるエアゾール産業の礎を築いた先駆者として，夜明けを切り拓いた業績は歴史に特筆すべきである。これらの人々が54年10月，日本エアゾール協会の前身であるエアゾル工業会を組織したが，これが業界が揺籃期から助走期へ入った“画期”であった。

一方，製缶会社の協力により初期の凹み型からドーム型1インチ口径缶への切り替えが進み，バルブも缶にハンダ取付けする真鍮挽物バルブから1インチマウントカップバルブへの転換が行われ，種々の関連法規が整い，来たるべき第一成長期（生育期）への胎動が始まっていたのである。

助走期を経た日本のエアゾール産業は，58，59年頃を境に急伸長をみせた。豊かな将来性に目をつけ企業の発展を夢見る人達が続々参入してきた。殺虫剤を自家充填するアース製薬を含む先発各社の血のにじむような“技術的地ならし”の後を受けて，家庭用品，医薬品，工業用品など数多い新製品が紹介され，エアゾールが希望ある商品として世間の関心を深めていった。当時のエアゾール市場を支えたのは大半がヘアスプレーと殺虫剤で，とくに美容院，理髪店向けの業務用ヘアスプレーが市場浸透に成功した。業務用ヘアスプレーが美容界に定着したのは，昔から頭髪用品業者の取扱い商品だったヘアーネットをヘアスプレーが受け継いだ側面があり，また「品質より価格で勝負する」傾向が強かった業務用化粧品は既存の銘柄をあまり重視しなかったことも，浸透できた条件であった。

55年代前半のエアゾール工場は，数社を除いて家内工業的で，保安管理や品質管理が十分でなかった。充填方法も手動式ないしは半自動の圧力充填，あるいは流し込み充填が大部分で，前期からの冷却充填がまだハバをきかしていた。しかし，新規参入会社の群生は，当然，企業競争を引き起こし，コストを下げ，大量生産して価格で勝負する傾向を生んだ。設備の新増設による拡張が活発に行われ，30年代後半は高速のアンダーキャップ充填機や圧力充填機を導入し，自動化，ベルトコンベアによる流れ作業の設営により家内工業から工業生産へ，手工業から大量生産の時代へと徐々に脱皮していった。

この時代は神武景気，岩戸景気と呼ばれ，日本経済は高度成長期を迎えエアゾール産業もこのような時代の流れに大きく影響を受けて，量的にも質的にも飛躍が見られた。製品市場も一般消費者の認識が高まり，種々の製品をエアゾール化する意欲が出，業務用ヘアスプレー，殺虫剤以外にも塗料，くもり止めなど家庭用品，工業用品，医薬品と広範囲になり，定着の兆しをみせてきた。一方，新旧入り乱れての設備投資は，業務用ヘアスプレーを中心に激烈な過当競争を生み，折からの「65年大不況」に遭遇した業界は，需要より供給能力が先行し，倒産する会社が続出し

た。半面，設備拡張により伸長した会社は，業界の中で企業基盤を築く結果となった。63年22社の新規業者が参入してモグリ会社（製造未届会社）を含め約100社に達したが，66年には約70社に激減していることからも，充填企業の浮沈の激しさがうかがえる。62～67年頃は，また設備拡張による大量生産時代の到来であり，多品種化が準備され，戦国時代でもあった。

通産法規の改正で人体用品の可燃性ガス使用禁止が打ち出されたのを契機に，67年過ぎからエアゾール市場は品種多様化と安定成長期（調整発展期）に入った。設備投資も一巡し，新規業者の参入も峠を越え，一応形も整い，量より質へ，価格より品質で勝負する業界体質へ転換していった。各社で研究開発が活発となり，製品の品質が著しく向上，新製品が続々と開発されていった。そうした昭和の時代を経て平成30年間の業界を振り返ると，実に多くの出来事が起き様々なことが変化した。平成30年間の主な業界変化は①89年に63社あった充填業者数は34社にほぼ半減②エア協統計による国内生産量は96年に過去最高の6億8,281万缶を記録③資材各社が先行したグローバル対応が進展④完成品輸出が急拡大⑤液充品（非エア製品）の業界受注量が著増⑥廃棄処理対策が具体化－などが挙げられる。ほぼ半減した充填業者を業務内容的にみると，受託充填専門（ローダー）またはそれが主体の会社が32社から22社に減少，自家充填主体の会社が31社から12社に減少し，充填工場数は70工場から39工場に縮小した。ローダーではプレスコ，協和産業，コヤマエアゾール工業が倒産，日本瓦斯，釜屋化学工業，鈴ヤ商事が事業撤退し，柏化学工業，東京エアゾル化学，近畿エアゾル工業，キョーワ工業が合弁しエア・ウォーター・ゾルが発足した。自家充填筋の撤退は89年のフロン規制，人体用可燃性ガス解禁の影響が大きく，とりわけ花王，ジョンソン，大正製薬各社が自家充填から撤退したことで，受託充填比率が欧米の50－60％に対し日本は90％以上を占める世界的に特異な業界を形成するに到った。

平成30年間の国内生産量の推移をみると，89年約5億2,333万缶で2018年約5億4,057万缶。単純比較すると30年間でわずか2千万缶弱しか増加していないが，この間，グローバル対応の進展でダイゾー，東洋エアゾール工業両社がタイに生産拠点を構築。両社タイ工場に生産移管・逆輸入した数量が17年約6,200万缶あったことを勘案すべきだろう。しかし，国